

新中野ダムのイベント

水と緑の祭典

毎年、7月21日から31日までを「森と緑に親しむ旬間」として、昭和62年より、全国各地で森と湖に親しむ旬間行事が開催されています。新中野ダムにおいても昭和62年より毎年、函館市、渡島東部森づくりセンター、函館土木現業所、(社団法人)北海道土木協会が主体となって「水と緑の祭典」を開催しています。

毎年、70名～80名位の親子連れが参加して、新中野ダムや森林(道有林)の見学、花壇に花を植えたり、鳥の巣箱づくり等を行い「ダム・川・森」が共存してすばらしい自然環境が創られていることを体験しています。

また、身近な自然とふれあうことで、「こころ・からだ」のリフレッシュにも一役かっています。



花を植えよう



サクラマスの稚魚放流



巣箱づくり



コースターづくり



オリエンテーリング



堤体見学(プラムライン)

メモ

「森と湖に親しむ旬間」

国民に森や湖に親しむ機会を提供することによって、心身をリフレッシュし、明日への活力を養うとともに、森林やダム、河川等の重要性について、国民の関心を高め、理解を深めることを目的として、国土交通省、林野庁、都道府県、市町村が主催して、昭和62年度(1987年)より毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」と定め全国各地で積極的な運動が展開されています。